

2012年8月25日(2)

## 非常食の備蓄広める

「白い小箱運動」に尽力

日本非常食推進機構(JEFO)の代表理事・古谷賢治さん(43)は、四日市市浮橋は、災害用非常食の備蓄を広める「白い小箱運動」を県内中心に、全国に広めることに力を入れている。



▲白い小箱運動について話す古谷さん＝四日市市浮橋で

高齢者向けのフードサーピス事業を手掛ける古谷さんは、2011年3月11日の東日本大震災の後、日々の防災意識を高めるために何か出来ることはないかと考えたのが非常食の備蓄。知人らの協力を得ながら「白い小箱運動」を始めた。

災害時には地域の連携が欠かせないと、県内の自治体へ働きかけてきた。7市2町と協定を結び、四日市市とは今年4月に、三重県とも8月17日に協定を結んだ。箱には水で飯の固さを調整出来る保存食、栄養や体力保

持のためのブドウ糖、飲料水2L、防寒シート、ポケットティッシュなど8品が入っている。また、小箱自体も組み替えると簡易トイレになる。

古谷さんは「まずはいろんな方にこの運動を知っていただき、災害に備えた備蓄意識の継続と向上のきっかけになれば」と話した。

運動を継続、広めていくために協賛を募り、箱に協賛者の名前を記載している。問い合わせは日本非常食推進機構

☎059・328・

5345へ。ホーム

ページは<http://>

[shiroikobako.org/](http://shiroikobako.org/)

org/